



●絵本の時間にありがとう

私の楽しみは日曜の朝のラジオ、落合恵子さんの絵本の時間です。こんな言葉が始まります。

「一冊の絵本を開くとき、あなたの小さな旅が始まります。音楽は生きる力を与えてくれ、絵本も同じ力を与えてくれます。だから本を読んであげたい。絵本は子どもと女性のもと思うかも知れませんが、男性もそう、年齢制限なし、さあ、発車のベルが鳴っています。」

この日はベルギー生まれの人が書いた「母さんはどこ？」です。

子どもが遊んでいました。経済的にはリッチではないが、みんな幸せに暮らしていました。ところが戦争はずくと続いていた。爆弾が落ちた。みんなちりぢり。母さんはどこ？走り逃げる。隠れることしかできない。ときどき、たびたび泣いた。

想像してください。子ども時代を奪われている。大人社会の選択で子どもは危機にさらされている。ほうぼう探

し求めているうちに、あ！母さんと再会できた。

こんな具合にほんの3、4分の時間です。耳から入る落合恵子さんのアルトの声が心地よく聞こえ、聞き入ってしまいます。挿絵の紹介もあり、物語のイメージが膨らみます。

これからもこんな楽しみ方を続けていきたいです。

落合恵子さん、心に残る絵本のお話をありがとうございます。

(目黒区/H・O)

●息子夫婦にありがとう

3世代で農家を営んでいます。生活がなかなか厳しくなり始めた昨年の秋、ようやくやる気になったのか、息子夫婦が自分たちで見つけたトマトの契約栽培をやってみようと言いました。説明会や講習会にも二人で参加し、今年の三月に資材品をかけ、ハウスに千二百本の苗を植えました。

十センチに育った苗を五月には畑に植え替え、何とか失敗しないよう夢中になんばつています。そんな息子と嫁を見ていると、四人の子供の親らしくなったなど、今までは親に寄り掛かってばかりいた息子夫婦がとても頼もしく思えました。

今は陰からそっと手伝い、口を出さない様にしています。

今年はお天気にも恵まれ、順調に育ち、七月初めには収穫の予定です。今からとても楽しみです。

(茨城県/T・Y)

●元気な義父にありがとう

老人会で聞いてきたのか、義父は十年前から友達の植木屋さんからお屋敷の植木の剪定に赤松があると松葉を貰い、届けてくれます。

義父は松葉を水でよく洗い天日乾燥させ、乾燥した松葉をハサミで粉にし、毎日スプーン一杯分を飲んでいきます。

九十七歳とは思えないほど肌はツルツルで、朝から毎日一万歩も歩いていきます。松葉は本当に体に良いのか、若い人のように元気です。

良いと思ったことは実行する。義父にはいつも教えられています。

(前橋市/J・S)



●主人と二人の義妹にありがとう

ゴールデンウィークに義妹二人に主人と一緒に花見と食べ歩きをしましよと誘われました。子供達が大きくなり、お互いの忙しさに電話だけとなってから十数年ぶりのお誘いでした。

当日は主人のお稽古の発表会でしたが、主人の熱心な勧めもあって、私だけの参加となりました。

ご主人を亡くした義妹宅に一泊し、カラオケやおしゃべりと楽しい前夜祭でした。

そして、いよいよ花見となりましたが、今年



時すでに遅しで、つつじ、藤と行く先々で花が散っており、花より団子のバスツアーとなってしまいました。でも、久しぶりの義妹達との交流は改めて兄妹愛を深め、本当に温かいものとなりました。

後日、近所の八百屋さんに立ち寄ると、「ご主人さんが買物に見え、『今日、家内は私の妹達と一泊で出かけてるんだ。』と嬉しそうに話していましたよ。今時めずらしい良い話ね。」

と言って頂き嬉しくなりました。

(横浜市/K・K)

●祝ってあげてありがとう

母の日に二つの小包が届きました。早速開けてみると嫁いだ長女からの贈物で、「お母さん、ありがとう。」と添えられてたカーネーションの鉢植えが。もう一つの小包には、「おばあちゃん、ありがとう。」と添えられたカーネーションの鉢植えとお菓子が入っていました。おばあちゃんに渡すとすぐ嬉しそうでした。

夜になると長男がみんなで食事に行こうと近くのとんかつ屋さんに連れて行ってくれました。おばあちゃんはビールを飲みご機嫌でした。

私達夫婦がおばあちゃんにさせてもらう事を、気付いたら子供たちが全部やってくれていました。私にとって何よりの母の日のプレゼントでした。

(調布市/Y・U)



●友よ、ありがとう

若い頃の不摂生がたたり、大病を患ってしまった。その後、退院はしたが下半身の衰えが顕著になり、歩行時に不安を覚えるようになった。その為、好きだった旅も諦めるより他なかった。無念がる私の声を聞いた友が、"ならば、これからは君の足となって、行った旅先の様子を伝えよう"と、言ってくれた。

その彼とは中学時代からの付き合いで、古稀を過ぎた今でも続いている。その後、彼からは約束どおりに旅先での報告が、ほぼ月に一度の割で、はがきや、封書で届いた。

そこには旅先での山河や、農村、漁村などの写真や、イラストの他に、その土地の風土や、歴史、文化にまで触れた、文章が綴られている。その詳細な報告により、行かずに、行った気分をさせてくれる友の思いやりに感謝せずにはいられない。

その、旅の出来事を詰め込んだ便りももう7年が過ぎた。どんなみやげにも勝る、この便りが何時までも続くことを祈りたいが、彼も老いてきた。友よ、無理せず、ゆつくりと歩いてくれ。

良き友に出会えたことは、幸せである。そして、友よ、「あ、り、が、と、う」

(世田谷区/H・A)

●車をありがとう

健康のため毎朝歩いていきます。毎日何人かの人とお会いするので、あいさつをするようになると次第に顔なじみになっていきます。たまに見かけないと「今日はどうした

のかな？」と心配になり、次の日に「何かありましたか？」と聞いてしまったり。そんな他愛もない会話も楽しみの一つとなっていました。

ある日、いつものように顔なじみのおじさんと話していました。

「昨日、仮免が取れて楽しくて。」

「そうですか。私はもう年なので、車を息子に譲ると言ったのですが、自分で持っているからいらなそうと言われ、来月廃車にするので思わず、」

「ええ、それなら私が乗りたい。」

「どうぞどうぞ、差し上げます。」

後日、お宅に頂きに行ったのですが、車検も済み、丁寧に乘られていたようでも、とても状態の良い車でした。

本当にいいのかな？と申し訳なく思い、「いくらから譲ってください。」

「あなたに乗って頂けるのなら、車も喜ぶでしょう。」

と譲ってくださいました。

思いがけないプレゼントにとっても驚きました。感謝しております。

(市川区/T・W)

●蛙の鳴き声や栗の花に

ありがとう

この町に住み始めた四十数年前、家の周りには栗林がたくさんあって、四月五月になると栗の花が咲き、栗の花の匂いでいっぱいでした。



この時期は田植えの準備で農家の人は田のくろを作ったり、苗代に種もみを蒔いたり、一年で忙しい時期でもありま

した。

田に水を張る頃、たくさんの蛙が昼、夜と鳴いていました。蛙の鳴き声が喧しく思ったこともありましたが、今は栗林も、蛙の鳴いていた田んぼにも、小麦畑にも家が建っています。

この時期、蛙が鳴くのは当たり前だと思っていました。今は蛙の鳴き声すら聞こえません。あの蛙たちはどこへ行ってしまったのでしょうか？

嫌な臭いの栗の花も見かけなくなりました。嫌な栗の花の臭いさえも懐かしく思えます。

年を重ねた今、周りをゆつくり見渡しなが、一日一日を楽しんで過ごしたいと思っています。

蛙の鳴き声や栗の花にありがとう。

(埼玉県/M・M)

●ゴミ出しをありがとう

ほこりまじりの風が吹き、丁度我家の前が吹きだまりになります。

ゴミ出しをどうするか近所で話し合った結果、

「ゴミ出しの日は順番でやりましょう。」

と言つてまとめてくださる方がいたので、順番にゴミ出しを行っていました。その方が引越されてしまったので、誰もまとめてくれる人がいなくなっていました。

そこで私が毎回させてもらうことにしました。お勤めされる方は私の家の前に置いて出かけ、道路を挟んだゴミ置き場へ時間になると運び出します。いつの間にか「ゴミお世話役」になっていましたが、でもご近所の方のお役に立てることが嬉しい昨今です。

(天田区/H・M)

【携帯 De'ショット】

雨が上がり町は花の香りが溢れている。国際バラ新品種コンクールの入賞花の四季咲き大輪系のバラ。大月啓伸さんの出展作品で、作品名は『あおい月』。最盛期を過ぎて緑色の大輪の一部が黄ばんでいるが、見事で美しい花に来年も出たい。



- 携帯電話の方はQRコードから →→→
●パソコンの方は下記のURLから ↓
http://1039.seesaa.net/
●メールでのご投稿は…
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せいただいた「ありがとう」のこぼれに因んだ思ひ出を、作文、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿いただいた方には、ささやかではございますが、オリジナル「ありがとうメガネ拭き」をプレゼントさせていただきます。皆様からのご投稿をお待ちしております。また、自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されては、いかがでしょうか。



編集へのご意見やご提案がございましたら是非ともお聞かせください。

